

# 高台自主防災会だより No.3

発行日：2020年2月25日  
発行人：防災会会長 山中繁

## 当地域(高台西、金ヶ原、こがねが丘、高台)の防災に関する要望書と市からの回答

防災を広い地域で考える取り組みとして2019年6月「当地域の防災に関する4自治会・自主防災会」(高台西、金ヶ原、こがねが丘、高台)を立ち上げました。

「当地域の防災に関する要望書」をまとめ、2019年12月10日、長岡市に提出。2020年2月4日「回答書」が出され、それをもとに質疑、応答を行いました。

今回は「中間報告」です。今後、更に回答に対する検討・要望事項を取り纏めます。ご意見をお聞かせください。

\*印は今回の話し合いにより明らかになった事項



### 災害避難所について

#### 要望 各避難所にテレビを設置すること

回答 ラジオを配備することで対応する。テレビは、災害情報の提供ツールとして有効だが、利用日数、機器設置費用、受信料等のランニング費用を考えると、費用対効果の面で課題がある

#### 要望 災害避難時に車での避難に、校庭及び運動場を開放すること

回答 避難は徒歩が原則。やむをえず車を利用する時は学校施設の駐車場を利用してください。グランドの使用は施設管理上想定していない

#### 要望 車での避難場所として高架下を利用できること

回答 土砂災害発生時は、下海印寺西条公園、こがねが丘ホタル公園を長岡市地域防災計画で屋外避難所として位置づけており利用可能です。高架下は、豪雨時小泉川の氾濫、大規模地震時には高架橋損傷の可能性もあり、高架下は利用できないことも予想される、その時は災害対策本部が判断する

#### 要望 第5小、四中、西乙高的避難所の収容人数に見合う避難(室)を明確にすること

回答 第5小は体育館、四中は武道場を開設。現段階で明確に場所の指定はできない。教育活動を優先しながら避難時の避難人数、収容状況に応じた使用を考える。西乙訓高校は避難指示の状況に応じて開設を調整する  
\*第四中学校は避難者全員を受け入れる

#### 要望 大地震の場合、緊急避難所として夜間においても学校を開放すること

回答 小学校、中学校、高校の体育館の危険度判定調査を行い、安全が確保されたうえで、避難所を開設する

#### 要望 西乙訓高校体育館の和式トイレを洋式トイレに改修すること

回答 \*京都府の施設であり、府の計画により高校体育館に洋式トイレが設置されました（男子用1・女子用2）

#### 要望 西乙高校を「レベル3」で避難所を開設すること

回答 市の施設だけでは対応できないと判断した場合に協定に基づく要請を行い、西乙訓高校で避難所を開設する

#### 要望 西乙訓高校避難所における大山崎町民との混雑を避けるための行政間調整を行うこと

回答 大山崎町では、町民の西乙訓高校への避難は想定していない。西乙訓高校との災害協定の締結の予定もない  
大山崎町民が避難してこられた場合は大山崎町で必要な対応をとる

### 要支援者の避難対策について

#### 要望 要配慮者の避難手段及び避難方法の明示

回答 支援には自治会、自主防災会、民生委員等地域でお互いに協力して支援体制を作ることが大切。地域と平時から要配慮者名簿を共有し、避難支援に向けた個別計画の策定に取り組んでいる

#### 要望 堅牢な個人住宅も家主と避難者との了解があれば避難所と認定し、必要な備品は配布すること

回答 自主避難所への備品の配布については、自主防災会の資器材購入補助制度を活用して、必要な備品等を整備していただきたい。\*補助金額：購入金額の1/2、最大3万円

### 長岡市ハザードマップについて

#### 要望 大地震発生時に液状化現象が発生する道路を避けた安全な避難通路を明示すること

回答 現時点では液状化現象に対応した安全な避難経路を明示できません。・京都府が発表している液状化危険度分布図は、最大クラスの地震の揺れによる液状化の危険度を推計したものであり、その土地が「液状化する・しない」を断定するものではない。今後も京都府と連携して対応をしてゆく

#### 要望 急傾斜特別警戒区域にかかる第四中学校の体育館擁壁を早急に改修すること

回答 第四中学校体育館の建て替え、移転を検討してまいります



### 土石流対策について

#### 要望 各池に流入する谷筋の障害物（台風・豪雨や地震等による倒木・掛け崩れ・土砂等）の除去を公費で行うこと

回答 市としては、豪雨等による災害防止の観点から、伐採木や風倒木の整理をふまえた森林整備や、伐倒処理を行っています。谷筋の障害物の除去については、被災の規模によって、京都府が事業主体として障害物の除去をしたり、事業主体の除去活動に対する経費の一部を京都府が助成することになります

#### 要望 専門家による池の堤体及び下流護岸の総合的調査を定期的に行い、公費で災害防止に万全を期すこと

回答 専門家による定期検査の計画は現在のところありません。ただし、農業用ため池の貯水機能や洪水吐(バケ)等に不具合がある場合は改修を行うことを前提に調査します  
・農業用ため池の定期点検は京都府地域防災計画及び京都府農業用ため池点検調査実施要領に基づき、職員による現地点検を行っています  
・防災重点ため池は毎年1回、農業用ため池の機能異常の早期発見に努めております  
・大雨や台風の接近が予想される場合には、ため池管理者へ流木等の除去及び放流による水量調整、用排水路の点検を依頼。市の職員によるパトロールも実施。特に、住宅が密集している、金原寺池、芦原池、鎮守池については、重点的に見回るようにしています

#### 要望 線状降雨帯が襲来しても対応しうる排水機能の構築を公費で行うこと

回答 農業用ため池の洪水吐(バケ)は日雨量約325mm、時間雨量約90mmを想定して設計されています。平成30年7月の日雨量約224mmで、長岡市での観測史上3番目の降水量であったが、農業用ため池及び排水機能への影響はなく、現在、排水機能に問題はないと考えている。排水機能を含め農業用ため池の改修が必要になった場合には、改修費用の70%～95%の補助を行っている。地元財産区や農家組合の施設であるため一定の受益者負担は必要と考えている

#### 要望 各池に危険水位、避難水位の観測標識を設置すること

回答 農業用ため池には排水機能である洪水吐が設置しており満水面より水位が上昇しない構造になっています。大雨警報中は市職員が隨時パトロールを実施し万全を期しています。標識を設置することについては、今後、他市の事例も参考にし、標識等の設置を検討していきたい